

【調査票A】

問2 現在の日本の社会において、子どもたちが普通に生活するためには、最小限どのようなものが必要だと思いますか。次の(1)～(30)の各項目について、以下の3つの選択肢の中から、最もあなたの考えに近いものを一つだけ選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

		必要である	あったほうがよいが、なくてもよい	必要ではない
(1) スポーツ用品・ぬいぐるみなどのおもちゃ	→	1	2	3
(2) ブロックのおもちゃ(レゴ・モノブロックなど)	→	1	2	3
(3) 10歳以上の男児と女児の別々の部屋	→	1	2	3
(4) 携帯用音楽プレーヤー(iPodなど)	→	1	2	3
(5) 新しい(お古ではない)洋服	→	1	2	3
(6) 自転車または三輪車	→	1	2	3
(7) 年齢に合った絵本や本	→	1	2	3
(8) 中学生以上の子どもへのお小遣い	→	1	2	3
(9) おけいこ事	→	1	2	3
(10) 塾	→	1	2	3
(11) 誕生日祝い	→	1	2	3
(12) クリスマスのプレゼント	→	1	2	3
(13) 子供の学校行事などへの親の参加	→	1	2	3
(14) 高校・専門学校までの教育	→	1	2	3
(15) 短大・大学までの教育	→	1	2	3
(16) 1日3回の食事	→	1	2	3
(17) 果物(1日1回以上)	→	1	2	3
(18) 野菜(1日1回以上)	→	1	2	3
(19) 牛乳・ヨーグルトなどの乳製品(毎日)	→	1	2	3
(20) 新しい(お古ではない)靴	→	1	2	3
(21) 家の近くで安全に遊べる公園	→	1	2	3
(22) スポーツ・チーム等(野球、サッカー等)などの費用	→	1	2	3
(23) 学校における課外授業(社会科見学等)への参加費・交通費	→	1	2	3
(24) 修学旅行	→	1	2	3
(25) 家族での外出(動物園・海など)	→	1	2	3
(26) 11歳以上の子どもの携帯電話	→	1	2	3
(27) コンピューター(中学生以上)	→	1	2	3
(28) インターネット接続環境(中学生以上)	→	1	2	3
(29) 必要な時に医者にかかること(健診も含む)	→	1	2	3
(30) 必要な時に歯医者にかかること(歯科検診も含む)	→	1	2	3

【調査票B】

問1 現在の日本の社会において、すべての人にあてはまる生活水準についてお聞きします。
 次の(1)～(67)の各項目は、現代の社会生活をおくるために、必要であり、すべての人が得ることができるべきと思いますか。以下の3つの選択肢の中から、最もあなたの考えに近いもの一つだけ選んでください。
 (○はそれぞれ1つずつ)

- (A) 必要であり、すべての人が(欲しければ)これを入手することができるべきである
 (B) あったほうがよいが、なんらかの理由(経済的など)で入手できなくても、いたしかたがない
 (C) 必要ではない

	(A) 必要であり、 すべての人 が、入手する ことができる べきである	(B) あったほうが よいが、入手 できなくても、 いたしかたが ない	(C) 必要では ない
<耐久財>			
(1) 電子レンジ →	1	2	3
(2) 冷房・暖房(ルームエアコン) →	1	2	3
(3) 湯沸かし器(台所、洗面所) →	1	2	3
(4) 自宅の電話(固定電話・携帯電話) →	1	2	3
(5) 家族の大人に1人1台の携帯電話 →	1	2	3
(6) インターネット接続環境 →	1	2	3
(7) DVD・ブルーレイ・ビデオなどの映像機器 →	1	2	3
(8) 冷蔵庫／冷凍庫 →	1	2	3
(9) ヘアドライヤー →	1	2	3
(10) ソファ・長椅子などリラックスできる椅子 →	1	2	3
(11) 家族全員が座れる食卓 →	1	2	3
(12) 家族人数分のベッドまたは布団 →	1	2	3
(13) カーテンまたはブラインド →	1	2	3
(14) ベランダまたは庭 →	1	2	3
(15) 本(中古本も含む) →	1	2	3
(16) コンピューター(パソコン) →	1	2	3
(17) テレビ →	1	2	3
(18) オーディオ機器(ステレオセット、CD/MDラジオカセットなど) →	1	2	3
(19) 携帯用音楽プレーヤー(iPodなど) →	1	2	3
(20) 炊飯器 →	1	2	3
(21) 温水洗浄便座 →	1	2	3
(22) 洗濯機 →	1	2	3
(23) 掃除機 →	1	2	3
(24) カメラ(デジタルカメラも含む) →	1	2	3
<住宅>			
(25) 別々の部屋にある寝室と食卓 →	1	2	3
(26) 家族専用のトイレ →	1	2	3
(27) 家族専用の炊事場(キッチン) →	1	2	3
(28) 家族専用の浴室(お風呂・シャワー) →	1	2	3
(29) 複数の寝室(二人以上世帯の場合) →	1	2	3
(30) 日光が入る部屋 →	1	2	3
(31) 火災報知機 →	1	2	3
(32) 家の中で1人になれる場所 →	1	2	3
(33) 家財に対する火災保険 →	1	2	3

【調査票B】

	(A) 必要であり、 すべての人 が、入手する ことができる べきである	(B) あったほうが よいが、入手 できなくても、 いたしかたが ない	(C) 必要では ない
<食事+衣服>			
(34) 果物(1日1回以上) →	1	2	3
(35) 野菜(1日1回以上) →	1	2	3
(36) 1日2回以上の食事(大人の場合) →	1	2	3
(37) 肉・魚・豆腐などのたんぱく質(毎日) →	1	2	3
(38) 新しい下着(1年に1回以上) →	1	2	3
(39) 晴れ着・礼服 →	1	2	3
(40) 冬用のコート →	1	2	3
(41) 理髪店・美容院にかかる費用 (男性月1回、女性2カ月に1回程度以上) →	1	2	3
(42) 自宅用の普段着 →	1	2	3
(43) 就職・仕事用のスーツ →	1	2	3
(44) 必要な時に医者にかかること →	1	2	3
(45) 必要な時に歯医者にかかること →	1	2	3
(46) 風邪薬・鎮痛剤・塗り薬などの市販の薬 →	1	2	3
<社会生活>			
(47) 親戚の冠婚葬祭への出席(ご祝儀等を含む) →	1	2	3
(48) お正月のお祝い(門松、おせち料理、等) →	1	2	3
(49) 友人・家族・親戚に会うための交通費 →	1	2	3
(50) 1泊以上の国内家族旅行(1年に1回以上) →	1	2	3
(51) 家族・友人・知人などへのお土産やお祝い品(1年に1回以上) →	1	2	3
(52) 趣味やスポーツを通じた交流の機会 →	1	2	3
(53) 町内会・子供会・老人会・婦人会などへの参加 →	1	2	3
(54) 外食(月に2、3回以上) →	1	2	3
(55) 職場の飲み会などへの参加費用 →	1	2	3
(56) 自家用車 →	1	2	3
(57) オートバイまたはスクーター →	1	2	3
(58) 自転車 →	1	2	3
(59) バスや電車の料金(長距離を除く) →	1	2	3
<教養娯楽>			
(60) 映画・演劇・コンサート・美術館に行く費用(月に1回以上) →	1	2	3
(61) 本・DVDなど教養娯楽に使えるお金(3,000円以上/月) →	1	2	3
<金銭的ゆとり>			
(62) 毎月の貯金 →	1	2	3
(63) 急な出費のための貯蓄(50,000円以上) →	1	2	3
(64) 生命保険等(死亡・障害・病気など) →	1	2	3
(65) 年金保険料の支払い/年金受給 →	1	2	3
(66) 家賃や公共料金(ガス・水道・電気など)の支払い →	1	2	3
(67) 家族のためでなく、自分のために使えるお金(週1,000円以上) →	1	2	3

【調査票B】

問2 次に、現在の日本の社会における、子どもの生活についてお聞きします。次の(1)～(30)の各項目は、子どもの生活に必要であり、欲すれば、すべての子どもがこれを持つことができるべきだと思いますか。以下の3つの選択肢の中から、最もあなたの考えに近いもの一つだけを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

- (A) 必要であり、すべての子どもが(欲しければ)これを持つことができるべきである
 (B) あったほうがよいが、なんらかの理由(経済的など)で持てなくても、いたしかたがない
 (C) 必要ではない

	(A) 必要であり、 すべての子どもが持つこと ができるべき である	(B) あったほうが よいが、持て なくても、いた しかたがない	(C) 必要では ない
(1) スポーツ用品・ぬいぐるみなどのおもちゃ	→ 1	2	3
(2) ブロックのおもちゃ(レゴ・モノブロックなど)	→ 1	2	3
(3) 10歳以上の男児と女児の別々の部屋	→ 1	2	3
(4) 携帯用音楽プレーヤー(iPodなど)	→ 1	2	3
(5) 新しい(お古ではない)洋服	→ 1	2	3
(6) 自転車または三輪車	→ 1	2	3
(7) 年齢に合った絵本や本	→ 1	2	3
(8) 中学生以上の子どもへのお小遣い	→ 1	2	3
(9) おけいこ事	→ 1	2	3
(10) 塾	→ 1	2	3
(11) 誕生日祝い	→ 1	2	3
(12) クリスマスのプレゼント	→ 1	2	3
(13) 子供の学校行事などへの親の参加	→ 1	2	3
(14) 高校・専門学校までの教育	→ 1	2	3
(15) 短大・大学までの教育	→ 1	2	3
(16) 1日3回の食事	→ 1	2	3
(17) 果物(1日1回以上)	→ 1	2	3
(18) 野菜(1日1回以上)	→ 1	2	3
(19) 牛乳・ヨーグルトなどの乳製品(毎日)	→ 1	2	3
(20) 新しい(お古ではない)靴	→ 1	2	3
(21) 家の近くで安全に遊べる公園	→ 1	2	3
(22) スポーツ・チーム等(野球、サッカー等)などの費用	→ 1	2	3
(23) 学校における課外授業(社会科見学等)への参加費・交通費	→ 1	2	3
(24) 修学旅行	→ 1	2	3
(25) 家族での外出(動物園・海など)	→ 1	2	3
(26) 11歳以上の子どもの携帯電話	→ 1	2	3
(27) コンピューター(中学生以上)	→ 1	2	3
(28) インターネット接続環境(中学生以上)	→ 1	2	3
(29) 必要な時に医者にかかれること(健診も含む)	→ 1	2	3
(30) 必要な時に歯医者にかかれること(歯科検診も含む)	→ 1	2	3

<< 必需サービス調査 >> 調査結果

自治体で提供すべきサービスか

	全体	絶対に、このサービスを提供すべきである	提供できなくてもしかたがない	提供しなくてもよい
1. 子どものためのサービス				
(1) 待機児童がゼロとなるように保育園を拡充	3380	1839	1277	264
(2) 親が働いている小学校1年～3年の子どものための居場所づくり(学童保育)	3380	1710	1392	278
(3) 親が働いている小学校4年～6年の子どものための居場所づくり(学童保育)	3380	1140	1749	491
(4) すべての小学生のための放課後の居場所づくり(放課後クラブなど)	3380	1015	1706	659
2. 子どもの医療サービス				
(1) 3歳までの子どもの医療費の無償化	3380	2195	922	263
(2) 6歳までの子どもの医療費の無償化	3380	1873	1165	342
(3) 12歳までの子どもの医療費の無償化	3380	1236	1491	653
(4) 15歳までの子どもの医療費の無償化	3380	749	1555	1076
(5) 18歳までの子どもの医療費の無償化	3380	400	1396	1584
(6) 20歳までの子どもの医療費の無償化	3380	220	999	2161
(7) 6歳までの歯科検診(チェックアップ)の無償化	3380	1583	1221	576
(8) 12歳までの歯科検診(チェックアップ)の無償化	3380	1022	1453	905
3. 学力保障				
(1) 最低限の基礎的学力がっていない子どもに対する学習支援(無料塾など)	3380	1332	1465	583
(2) 公立学校の低所得世帯の子どもの修学旅行・課外学習の無償化	3380	1139	1528	713
4. 高齢者サービス				
(1) 食事が作れない高齢者のための低価格の配食サービス	3380	1758	1418	204
(2) 一人暮らしの高齢者の電話見守りサービス	3380	1572	1505	303
(3) 一人暮らしの高齢者の巡回見守りサービス	3380	1820	1331	229
(4) 介護リハビリ・パンツ(おむつ)の費用助成	3380	1261	1697	422
(5) 日用品(電磁調理器、補聴器、消火器など)の支給	3380	771	1771	838
5. 住宅				
(1) 条件を満たすすべての人を対象にした公営住宅への入居	3380	1096	1872	412
(2) 低所得の世帯に対する家賃の一部補助金	3380	1054	1822	504
(3) 持家をもつための住宅ローンの税制優遇	3380	807	1683	890
(4) 泊るところがない人が一晩泊まれる緊急シェルター設置	3380	973	1762	645
(5) 泊るところがない人が数カ月入居できる自立支援センター設置	3380	934	1825	621
6. 児童福祉サービス				
(1) 児童虐待の対応のための24時間通報受付・受入れ体制の設置	3380	2412	813	155
(2) 児童虐待に対応する児童相談所などの職員の増員	3380	1894	1251	235
(3) 里親への支援体制(相談、訓練など)の強化	3380	1389	1733	258
(4) 児童養護施設の職員の増員	3380	1432	1651	297
(5) 児童養護施設の被虐待児ケアの強化	3380	1776	1382	222
(6) 児童虐待の加害者に対する更生プログラム実施	3380	1490	1528	362
7. その他のサービス				
(1) 多重債務者のための相談事業実施	3380	735	1937	708
(2) 公共料金の支払いができない人のための相談事業実施	3380	1033	1777	570

【必需サービス調査票】

これからあげる行政サービスは、各自治体の裁量で、それを市民に提供するか、どうかが決まっています。そのため、自治体の財政事情や考え方によって、それぞれのサービスを受けられる地域と受けられない地域があります。
 それぞれのサービス分野における状況をふまえ、あなたの自治体で提供すべきかどうかについて、あなたの考えに最も近いものを、一つ〇をつけてください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	絶対に、このサービスを提供すべきである	提供したほうがよいが、財政事情などで提供できなくてもしかたがない	提供しなくてもよい
1. 子どものためのサービス 親の就労状況や経済状況によって、子どもの置かれている状況には違いがあります。塾や習い事に通う子どもが増える一方、公園から子どもの姿は消えました。家に閉じこもり、ゲームやテレビに時間を費やしている子どもも増えています。			
(1) 待機児童がゼロとなるように保育園を拡充 →	1	2	3
(2) 親が働いている小学校1年～3年の子どものための居場所づくり(学童保育) →	1	2	3
(3) 親が働いている小学校4年～6年の子どものための居場所づくり(学童保育) →	1	2	3
(4) すべての小学生のための放課後の居場所づくり(放課後クラブなど) →	1	2	3
2. 子どもの医療サービス 現在、子どもの医療費(自己負担分)を、多くの自治体が無料化しています。しかし、その対象年齢など、制度は自治体によって異なります。			
(1) 3歳までの子どもの医療費の無償化 →	1	2	3
(2) 6歳までの子どもの医療費の無償化 →	1	2	3
(3) 12歳までの子どもの医療費の無償化 →	1	2	3
(4) 15歳までの子どもの医療費の無償化 →	1	2	3
(5) 18歳までの子どもの医療費の無償化 →	1	2	3
(6) 20歳までの子どもの医療費の無償化 →	1	2	3
(7) 6歳までの歯科検診(チェックアップ)の無償化 →	1	2	3
(8) 12歳までの歯科検診(チェックアップ)の無償化 →	1	2	3
3. 学力保障 今、日本では、親の経済状況などによって、子どもの学力格差が生じています。義務教育卒業時点で、九九など基礎的学力がつかない子どもがいます。			
(1) 最低限の基礎的学力がつかない子どもに対する学習支援(無料塾など) →	1	2	3
(2) 公立学校の低所得世帯の子どもの修学旅行・課外学習の無償化 →	1	2	3
4. 高齢者サービス 一人暮らしの高齢者の増加により、孤独死や生活困難が問題となるケースが増えています。			
(1) 食事が作れない高齢者のための低価格の配食サービス →	1	2	3
(2) 一人暮らしの高齢者の電話見守りサービス →	1	2	3
(3) 一人暮らしの高齢者の巡回見守りサービス →	1	2	3
(4) 介護リハビリ・パンツ(おむつ)の費用助成 →	1	2	3
(5) 日用品(電磁調理器、補聴器、消火器など)の支給 →	1	2	3
5. 住宅 先進諸国のほとんどの国においては、低所得の世帯に対して家賃の一部を政府が補助金として給付したり、公営住宅などの公的住宅を供給しています。日本には、公園などに野宿したり、ネットカフェなどで寝泊まりする人が数万人います。また、賃貸住宅に暮らす世帯の中で家賃の滞納経験がある世帯は20世帯に1世帯です。			
(1) 条件を満たすすべての人を対象にした公営住宅への入居 →	1	2	3
(2) 低所得の世帯に対する家賃の一部補助金 →	1	2	3
(3) 持家をもつための住宅ローンの税制優遇 →	1	2	3
(4) 泊るところがない人が一晩泊まれる緊急シェルター設置 →	1	2	3
(5) 泊るところがない人が数カ月入居できる自立支援センター設置 →	1	2	3
6. 児童福祉サービス 現在、日本では、児童虐待のケースが急増しています。日本では、親から離れて生活しなければならなくなった子どものほとんどが施設で暮らしており、里親のもとで暮らす子どもはわずかです。			
(1) 児童虐待の対応のための24時間通報受付・受入れ体制の設置 →	1	2	3
(2) 児童虐待に対応する児童相談所などの職員の増員 →	1	2	3
(3) 里親への支援体制(相談、訓練など)の強化 →	1	2	3
(4) 児童養護施設の職員の増員 →	1	2	3
(5) 児童養護施設の被虐待児ケアの強化 →	1	2	3
(6) 児童虐待の加害者に対する更生プログラム実施 →	1	2	3
7. その他のサービス			
(1) 多重債務者のための相談事業実施 →	1	2	3
(2) 公共料金(ガス、電気など)の支払いができない人のための相談事業実施 →	1	2	3

*Research Seminar
The State of Art of
Measuring Poverty and Social Exclusion in the UK and Japan
IPSS, Tokyo
Time: January 6th, 2012 9:00~18:00*

Public Perception of Necessities in Japan

Aya Abe

(National Institute of Population & Social Security Research)

Background: The 2003 Necessities Survey

- Sample of 1350 adults (20 years +), randomly chosen from residents' register all over Japan
- 1350 responses (response rate = 67.5%)
- For 28 items, asked respondents whether they thought it is "necessary" to live normally in Japan (Type A question)

Comparing UK(1999) & Japan(2003)

Item	JAPAN	UK
Toys (that most of other kids have, such as dolls, blocks, soccer ball, baseball etc.)	12.4%	84%*
Bicycle (including second-hand)	20.9%	55%
At least one pair of shoes (not second-hand)	40.2%	94%
Clothes (not second-hand)	33.7%	70%
Own books	51.2%	89%
To be able to go to dentists (including check-ups)	86.1%	Australia 94.7%**

* UK question: "Toys (e.g. dolls, teddies)

** Australia : Community Understanding of Poverty and Social Exclusion Survey 2006 in Saunders et al. (2007)

Data: Japan Child Necessity Survey 2008 in Abe (2008), UK Office for National Statistics Omnibus Survey 1999, in Gordon et al. (2000)

Why is there a such low support for necessities in Japan?

- "Poverty" was not an issue that was well-known in Japan in 2003. → General public only had idea of "absolute" poverty
- Maybe a "wording problem"?
- Too rapid economic growth in the 60's to 70's -> "collective" memory of old days?
- Envy and nostalgia for "simple life"?

New Data
The 2011 Necessities Survey

- Date Surveyed: May 2011
(Bad timing – too much after effect of the 3.11.2011. earthquake ??)
- Mail survey
- Sample of 3000 adults (20 years +), randomly chosen from survey company's "monitors"
- 1518 responses (response rate = 50.6%)

Two types of questions:

- (A) In modern Japanese society, in order for a household to live normally, what do you think are minimally necessary ? (200 sample, 109 responses 54.5%) – exact wording of 2003 survey
- (B) This question is about a standard of living for all people in Japan today. In order to live a modern life, what items do you think are necessary and should be able to be acquired by everybody? (2800 sample, 1409 responses 50.3%)

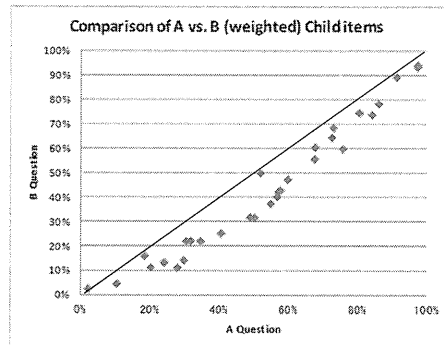
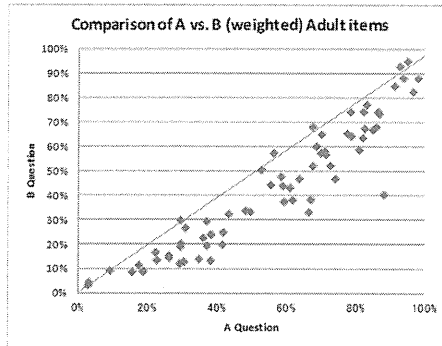
Wording of 1999 PSE

“I would like you to indicate the living standards you feel all adults (and children) should have in Britain today. Box A is for items which you think are necessary, which all adults should be able to afford and which they should not have to do without. Box B is for items which may be desirable but are not necessary.”

Results

	A			B			Total		
	Need%	Rec%	Base%	Need%	Rec%	Base%	Need%	Rec%	Base%
1 To be able to go to doctor when needed	93%	88%	95%	35	Fire damage insurance for home contents	88%	41%	43%	
2 To be able to go to dentist when needed	93%	83%	83%	36	Microwave oven	67%	38%	41%	
3 Two meals a day (for adults)	94%	88%	89%	37	To be able to save every month	62%	38%	40%	
4 Refrigerator/freezer	86%	88%	89%	38	Multiple bedrooms (for household with more than a couple)	59%	38%	39%	
5 To be able to pay rent and gas, water and electricity	91%	85%	85%	39	Bicycle	48%	34%	35%	
6 Clothes washer	86%	83%	84%	40	Books (including used books)	50%	33%	35%	
7 Bed and futons for everybody in the household	83%	77%	78%	41	Automobile	66%	33%	36%	
8 Insurance premium for pension (or receiving pension)	78%	75%	75%	42	Going to get haircut (once a month for men, once in two months for women)	43%	33%	36%	
9 Meat, fat, fish or other protein (everyday)	82%	75%	75%	43	Fruits (more than once a day)	39%	30%	30%	
10 Internet access	89%	74%	75%	44	Someone can be alone in the house	37%	30%	30%	
11 Vegetables (more than once a day)	87%	74%	75%	45	New year's celebration (kadomatsu, noh cake, etc.)	31%	27%	26%	
12 Medicine (which can be bought w/o prescription (for colds, pain, etc.	67%	68%	68%	46	Special dishes for funerals, weddings etc (reikiu)	42%	25%	26%	
13 Vacuum cleaner	86%	68%	70%	47	Gifts for family and friends (once a year)	38%	24%	25%	
14 Family's own bath (bath and shower)	82%	68%	68%	48	Hobbyist sports to mingle with people	36%	23%	24%	
15 Family's own kitchen	85%	67%	68%	49	Neighborhood clubs, women's clubs, children's clubs etc.	30%	20%	21%	
16 Family's own toilet	77%	66%	66%	50	Hair Dryer	41%	20%	22%	
17 Telephone at home (stationary or mobile)	70%	65%	68%	51	Mobile telephone for each adult in the household	37%	20%	21%	
18 TV	78%	65%	68%	52	Separate bedroom's from dining room	29%	16%	20%	
19 Room with sunshine	82%	64%	65%	53	Money to use on recreation and study (books, DVD, etc.) (3,000yen per month)	22%	17%	17%	
20 New underwear (at least once a year)	69%	60%	61%	54	An overnight family trip (at least once a year)	26%	16%	18%	
21 Curtain or blinds	61%	58%	60%	55	Toilet seat with automatic water heater (washlet)	26%	14%	16%	
22 Insurance for death, disability and sickness	71%	58%	59%	56	Computer	35%	14%	16%	
23 Fire detector	56%	58%	57%	57	Money to go out drinking with colleagues and such	23%	14%	14%	
24 Comfort wear for home	70%	58%	58%	58	Camera (including digital camera)	38%	13%	15%	
25 Savings for emergency (more than 50,000 yen)	71%	57%	58%	59	Internet access	30%	13%	14%	
26 To be able to go to a relative's wedding/funerals (including gifts)	73%	52%	54%	60	Veranda or a garden	26%	12%	13%	
27 Money to spend on your own (more than 1,000 yen per week)	66%	52%	53%	61	Eating out (3 times a month)	18%	12%	12%	
28 Suits for interviews and work	53%	51%	51%	62	Money to go to movies, museums, etc. (more than once a month)	9%	9%	9%	
29 Transportation costs for buses and trains (not long distance)	58%	48%	49%	63	Soft, long chairs or other relaxing chair	16%	9%	10%	
30 Transportation costs for friends and family	64%	47%	48%	64	DVD, Blu-ray or Video equipment	16%	9%	10%	
31 Air Conditioners (heating, cooling)	74%	47%	49%	65	Audio Set (Stereo, CD/AID Player etc.)	16%	9%	9%	
32 Winter coat	55%	49%	45%	66	Antibiotic or scooter	3%	4%	4%	
33 Hot water boiler	69%	44%	45%	67	Mobile Music Player (Pod etc.)	3%	3%	3%	
34 Table where all family members can sit	61%	43%	45%						

Comparison of A vs. B



- Almost without exception, the A question tends to get higher support than the B question.

Comparison of A & B

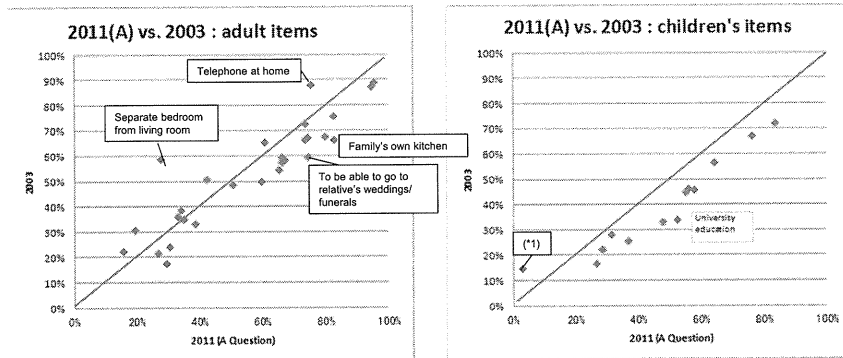
Items Stat. Different at 1% (selected)

- Microwave-oven 67-39
- Air conditioner 74-47
- Computer 35-14
- Camera 38-13
- Multiple bedrooms 59-38
- Fire insurance 88-41
- Relative's wedding 73-52
- Automobile 66-33
- To be able to save every month 62-38
- Clothes for funeral/weddings (Reifuku) 42-25
- Family's own kitchen 85-67

Items w/o Stat. diff.

- Telephone (home) 70-65
- Bed & Futon for everybody 83-77
- iPod 3-3
- Fire detector 56-58
- Place to be alone 37-30
- Fruits 29-30
- Doctor 95-95
- Dentist 93-93
- New Year's celebration 31-27
- Transportation cost 58-48
- Money to go to movies, etc. 9-9
- Pension insurance 78-75

Comparison of 2003 and 2010(A)



- There is no apparent trend in adult items, but there is more support for children's items.
- (*1) 2003 Walkman, CD, MD Players, 2011 Mobile music player (ipod etc.)

Items (28 items) that :

Gained more than 10%

- Family's own bath or shower
- Family's own kitchen
- To be able to go to relative's weddings/funerals (including gifts)
- To be able to save every month
- Multiple bedrooms (for households with more than a couple)
- Internet access

Lost more than 10%

- Telephone at home (stationary telephone)
- Separate sleeping space from living room
- Video player (DVD, Blue-ray or video equipment in 2011)

Children's items (13 items) that:

Gained more than 10% (8 items)

- Toys (sports equip., teddy bears, etc.)
- Bicycle or tricycle
- Pocket money for children over 12 yrs
- Juku (out of school education)
- Birthday present
- Xmas present
- High school education
- University (or junior college) education

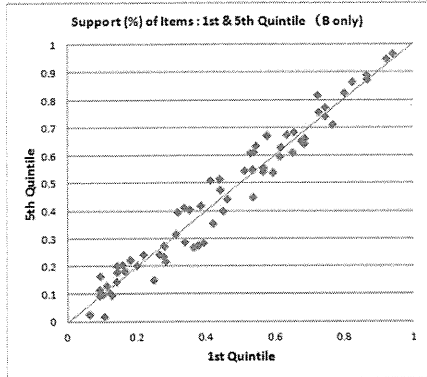
Lost more than 10% (1 item)

- Walkman, CD/MD Player (Mobile music player like iPod, in 2011)

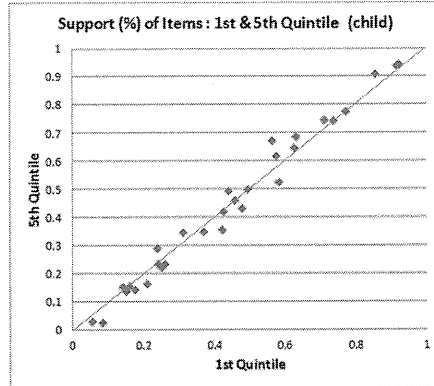
Who changed opinion?

- Pick items with a lot of change. See by sub-groups.

Concurrence of support between sub-groups : income quintile

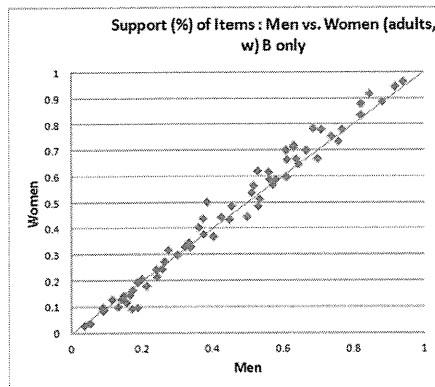


corr=0.979(<.0001)

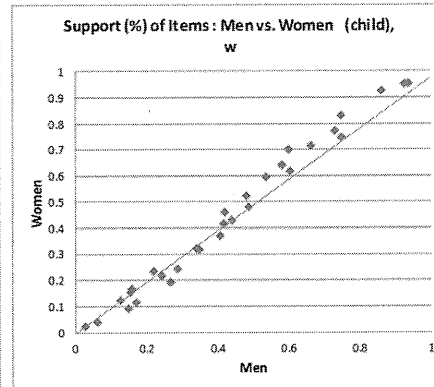


corr=0.991 (<.0001)

Between women & men

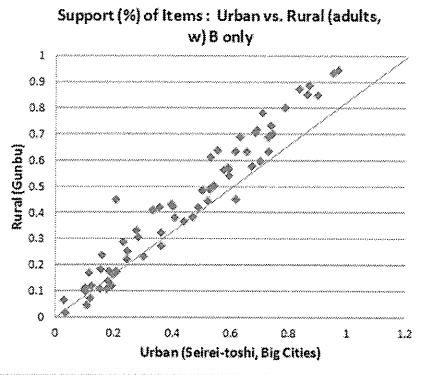


corr=0.990

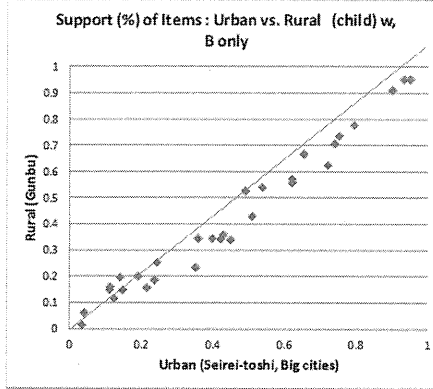


corr=0.993

Between Urban & Rural

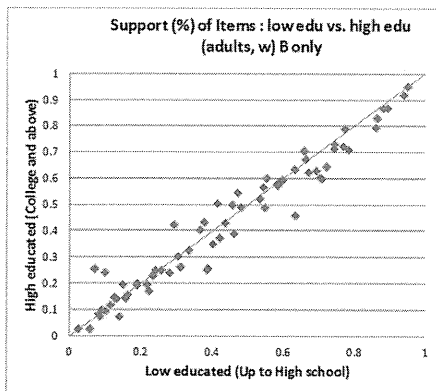


corr=0.973

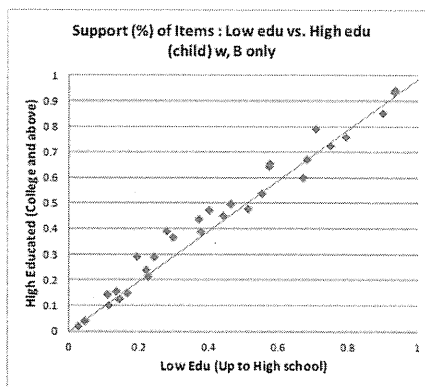


corr=0.986

Between low & high education attainment

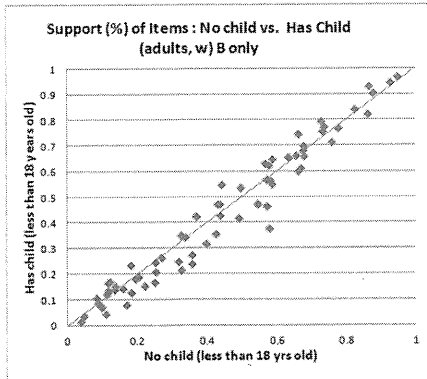


corr=0.974

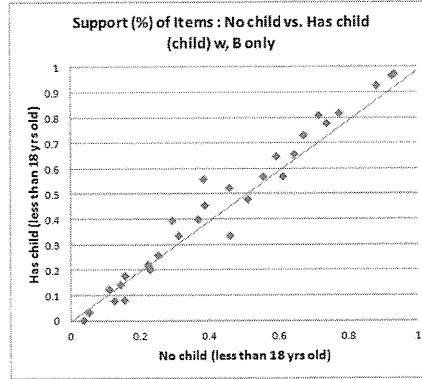


corr=0.986

Between parents & non-parents

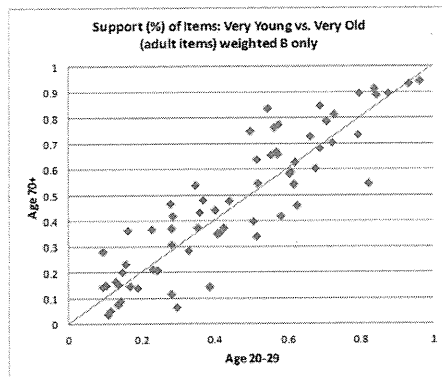


corr=0.978

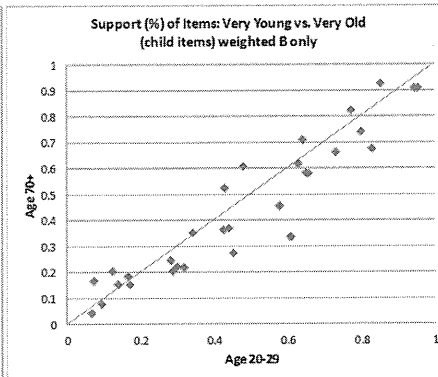


corr=0.983

Between Very Old & Very Young

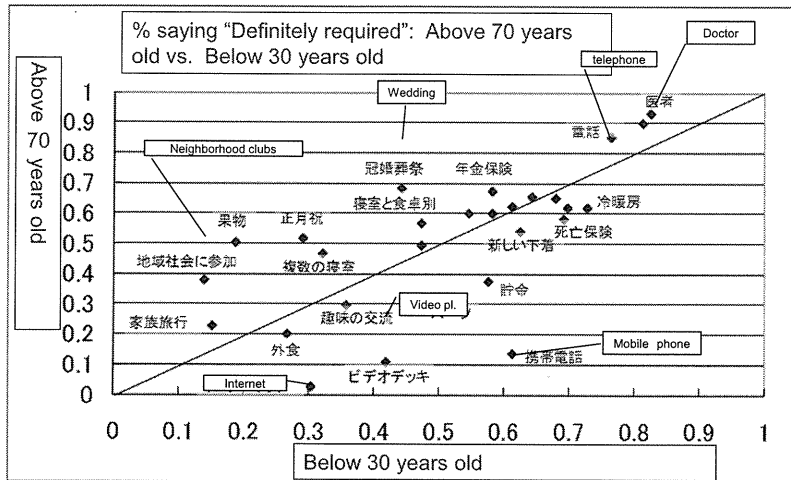


corr=0.898



corr=0.947

(2003 Survey)
% supporting items: by Age



Where are the discordances
- Mind you, can we really compare?

	PSE 1999 (UK)	R ²	Japan 2003	R ²	Japan 2011	R ²
Economic status	Richest quintile vs. Poorest quintile	0.94	Richest quintile vs. Poorest quintile	0.932	Richest quintile vs. Poorest quintile	0.979
Sex	Women vs. Men	0.98	Women vs. Men	0.960	Women vs. Men	0.990
Age	16-24 yrs old vs. 65+	0.81	20-29's vs. 70+	0.660	20-29's vs. 70+	0.898
Education			High school vs. College+	0.949	Middle+High school vs. College+	0.974
Social class	Social class I/II vs. IV/V	0.95				
Ethnicity	Minority ethnic vs. non-minority	0.84				
Region			Rural (choson) vs. Urban (13 big cities)	0.916	Rural (gunbu) vs. Urban (seirei)	0.973
			Subjective poor vs. Subjective rich	0.958		

[3] 貧困と政策

第1部 基調講演1

「イギリスの社会的包摂政策：成功と失敗」

デイヴィッド・ゴードン（ブリストル大学 タウンゼンド国際貧困研究所長）

皆さま、こんにちは。本日はせっかくの土曜日にもかかわらず、本会場にお越しくさつてありがとうございます。このように素晴らしい聴衆の前で話す機会を与您いただき光栄に思います。イギリスEconomic & Social Research Council、および日本学術振興会に資金を提供してくださつて、このような協力プログラムの会議を可能ならしめてくださったことに感謝したいと思います。また、阿部先生、そのほかの日本の研究者仲間の皆さまに御礼を申し上げたいと思います。このように素晴らしい会議をオーガナイズしてくださつて非常にうれしく思っており、今後さらに一層、日英の協力を深めていきたいと思ひます。

本日、私は、イギリスにおける社会排除、そして貧困対応政策について、どのようなものが成功して、どのようなものが不発であったかということについてご報告を申し上げたいと思ひます。また、なぜこれらの政策が日本にとって参考になるかということについて、イギリスの視点からご説明させていただきます。

貧困撲滅宣言

数年前、国際連合と国際社会学学会の依頼により、貧困の考え方についての比較研究を行いました。そこで、貧困というのは普遍的な概念であるということが我々の結論でした。あらゆる文化圏、社会におきまして貧困の概念が存在するということが分かりました。その一例を挙げますけれども、最初に、日本では「富める者は友多し、貧しき者は親族からも縁を切られる」と言うそうです。これは素晴らしい日本の格言でありまして、貧困と社会的排除について物語っていると思ひます。つまり貧しき者は親族もいなくなってしまう。親族からも縁を切られてしまうということでもあります。貧困者は結局、社会から孤立し絶縁されてしまつて、家族からも縁を切られてしまうということをうまく表現している言葉だと考えています。

近代におきまして社会的包摂と貧困に対して対策が取られた一例としましては、1999年、当時イギリスの首相であったトニー・ブレアによる発表に集約されております。「子どもの貧困を未来永劫、社会からなくす。そして、それを2020年までに一世代かけて実行する」という公約をいたしました。これは素晴らしい公約でありまして、それまでのイギリスで樹立された政権の中で、「未来永劫、子どもの貧困を撲滅させる」という公約を掲げた政権はありませんでした。さまざまな措置が発表されまして、子どもの貧困をどのようにして撲滅するか、どのように包摂を高めて排除をなくすかという政策が発表されています。その結果、立法化のさまざまな措置が行われ、子どもの貧困法が2010年に制定されまして、2020年までに撲滅するということが法に落とし込まれました。ですので、これを試みないことは政府にとって違法になるということでもあります。また、この法制定におきまして、全ての政党がこの法案を支持したということが非常に重要な点であります。あらゆる政党が支持しました。

子どもの貧困防止法は明確に目標を設定しております。また貧困ということ、貧困撲滅について4つの統計的な測定法を使うことによって明確に定義しております。そして担当大臣は子どもの貧困戦略を設立することを義務づけられており、それを3年ごとに更新しなくてはならないこと、そしてそれに対して第三者による評価が行われなくてはならないと定められております。

貧困を撲滅できるという考え方は比較的最近生まれたところでありまして、イギリスにおきまして法律化されたのは最近ですけれども、400年前には異なる考え方が主流でした。過去におきましては、貧困は、神の意志ということで避けられない必要悪だと思われていたのですが、フランス革命のときに初めて貧困は撲滅可能であるという考え方が台頭してきました。つまり貧困は解決できるのではないか。むしろ神の意志ではなく、人為的な行動による帰結ではないかということでありまして、社会科学の不完全さが原因ではないか。普遍的に、年金、若者への手当、疾病手当、また国費による教育などを提供することによって貧困を撲滅できるのではないか。そういう、いわゆる福祉社会国家概念が生まれたのです。

フランス革命でフランスにおいて設立されただけでなく、トマス・ペイン (Thomas Paine) もアメリカの革命に影響力を行使した学者ですけれども、彼自身もそういったような考え方を樹立しました。ただ、同時は狂っているアイデアではないかと一般大衆は思ったのです。そんなこと実現できるわけではないと。ところが、この人たちは先見の明があったということを我々現代では分かるわけでありまして、多くの国家がこういった福祉国家の解決法を踏襲して実施しております。そうすることによりまして削減し、そして最終的には貧困を撲滅させたいと考えております。

では、貧困とは何を意味するかということです。社会的排除、そして貧困に関しては、イギリスで適応されているのみならず、確立した定義が定められております。現在では、欧州連合の27加盟国、5億人を網羅する加盟国全部で1つの定義が使われております。1974年に定義ができたんですけれども、以下が最新の改正後の定義であります。

「物質的、文化的、社会的資源があまりに限られているがために、居住する加盟国において受け入れられる最低限の生活からも排除されてしまうような個人・家族集団」

と定義されております。この概念は貧困の相対的概念として捉えられております。市民の権利が侵されていることを貧困を定義しておりまして、通常の活動に参加できるだけの資金を確保できるかという概念からの定義であります。必需品、普通誰でも持っているはずのものを購入できるだけのお金を持っていない。そして最低限の生活を送るだけの資金力がないということでありまして、つまり市民になって通常の社会に参加できるだけの資金力を持ってないことが貧困であるという考え方でありまして。

私の同僚であるピーター・タウンゼンド教授、最近亡くなられて大変残念ですが、このタウンゼンド教授がもともと「相対的な貧困」という概念をつくり出しました。これは社会科学からの発案でありまして、どのような社会でも適応できる概念であります。資源、そして資金の欠如が貧困であるということ。そして、その結果として最低限の生活から除外されてしまうということでありまして、それがその結果としての現象であると捉えられておりまして、異なる定義をする人もいますけれども、今のところはタウンゼンド概念を踏